

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒114-0013 東京都北区東田端 1 - 12 - 3
稲垣ビル 5F セフティレビュー内
TEL (03) 5855-0260
FAX (03) 5855-0261
MAIL toukankyo@mbs.sphere.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

- ★ 平成 26 年度 技術研修会報告
- ★ 平成 26 年度 首都圏環協連・研修見学会報告
- ★ 「都民計量のひろば」報告
- ★ 関係機関・団体の動き
 - ・首都圏環境計量協議会連絡会
 - ・(一社) 神奈川県環境計量協議会
 - ・(一社) 埼玉県環境計量協議会
 - ・千葉県環境計量協会
 - ・(一社) 日本環境測定分析協会
- ★ 東環協からのお知らせ
 - ・平成 26 年度第 2 回親睦ゴルフ大会報告
 - ・平成 26 年度これからの主要行事予定
 - ・事務局からのお知らせ

平成 26 年度 技術研修会報告

地球温暖化を上回るスピードで進んでいると言われる都市のヒートアイランド現象について、東京都環境科学研究所 調査研究科長 横山仁先生にご講演いただくと共に、近年中国で社会問題となり、日本でも注目されている PM2.5 による大気汚染の現状について、東京都環境科学研究所 所長 柿沼潤一先生にご講演いただきました。

日 時 : 平成 26 年 10 月 27 日(月) 13:30~17:00

場 所 : スクワール麹町 3F 「華の間」

参加者 : 会員 23 社 45 名

東環協 佐藤会長の挨拶



挨拶する佐藤会長

皆様、本日はお忙しいところ、東環協主催平成 26 年度技術研修会に参加頂きまして、誠に有り難うございます。ご存知のように、この技術研修会は当初 10 月 6 日(月)に予定しておりましたが、当日は台風 18 号の本州上陸の影響で首都圏におきましては正午前後に交通機関の乱れが予想されました。そのため、午前 9:00 の段階でリスク管理の観点から本セミナーを順延させて頂く事を決定致しました。その後、両先生のご好意(スケジュール調整)ならびに聴講希望者である皆様のご協力によりまして、何とか同月中の本日 27 日(月)に開催する事ができました。皆様方のご理解とご協力に本当に感謝申し上げます。

本日の講演テーマは、東京都環境科学研究所 調査研究科長 横山 仁氏による「東京におけるヒートアイランドの実態と極端現象」、同じく東京都環境科学研究所 所長 柿沼 潤一氏による「東京における PM2.5 の現状と今後」であります。両テーマ共に環境測定・検査分析従事者ならずとも都民という観点からでも大変興味深いテーマなので、具体的な分析データといった専門知識を深めるのみでなく、気象情報といった観点からも見聞を拡げて頂ければ主催者として嬉しい限りです。なお、両先生よりご用意頂きましたパワーポイントの配布資料は、大変詳細なカラーデータなのですが、当会の予算の関係上、モノクロ印刷とさせて頂いた資料を配布させて頂きました。そのため大変見難い状態と思います。大変申し訳ございません。どうか、皆様が興味あるデータにつきましては、どうぞしっかりと目に焼き付けて聴講頂ければ幸いです。

誠に簡単ですが、開演に先立ち私の挨拶とさせて頂きます。

1. 第1部 (13:30~15:00)

演 題 : 「東京におけるヒートアイランドの実態と極端現象」

講 師 : 公益財団法人 東京都環境公社 東京都環境科学研究所
調査研究科長 横山 仁氏



講演する横山先生

昨今、東京都内では、猛暑日の日数が増加していることやゲリラ豪雨による水害など地球温暖化によるものと思われる気候の変化が起こっています。今回の講演では、ヒートアイランドの実態と極端現象について、詳しい解説を交えたお話をしました。

地球レベルでは、二酸化炭素濃度の上昇に伴って、 0.7°C の気温の上昇が見られ、人為的な影響によるものと考えられています。世界主要都市での年平均気温の変動は、ニューヨーク、パリでは横ばい傾向にありますが、東京都では 3°C 前後上昇しており、2010年の年平均気温は、東京、大阪、名古屋などの都市圏と都市化の進んでいない地域とを比較すると、 2°C 前後都市圏が高い傾向にあるということです。また、年平均気温の上昇は、最低気温の上昇が大きく寄与していると考えられています。

ヒートアイランド現象の原因としては、土地利用（緑地や水面の減少）の影響、建築物（高層化）の影響、人工排熱（人間活動で生じる熱）の影響などによるものと考えられており、ヒートアイランドによって、不快感・寝苦しさの増大、健康被害（熱中症等）、エネルギー消費量の増加、都市型集中豪雨、大気汚染（光化学オキシダント）等との関連などが挙げられています。東京都内における夏季の気温は、多摩部に比べ区部が高く、昼間は区部の北部～西部、夜間は臨海部を取り囲む広いエリアで高温になっているということです。

東京都における近年の熱中症による搬送件数は2010年から激増していて、猛暑日や熱帯夜の日数が増えている事が関係しており、また、気温の上昇と共に時間雨量50mm及び80mm以上の観測回数が増えている、ゲリラ豪雨も特に増えています。よく言われている「バケツをひっくり返したような雨」とは時間雨量30mmの雨のことを指しており、ゲリラ豪雨は気温の上昇に関係していて、夏季の気温が高い区部においてゲリラ豪雨による水害の発生が増えているということです。ゲリラ豪雨は何故発生するのか？区部北西部での発生メカニズムについては、東京湾、相模湾、鹿島灘からの海風が集中し、ヒートアイランドによって高温化した空気と相まって上昇気流となり、上空に巨大な積乱雲が形成されゲリラ豪雨をもたらすと考えられています。また、都心部においては、高層ビルの影響により積乱雲が形成されゲリラ豪雨になっているのではとも考えられています。

今後は、ヒートアイランドの原因を更に追求し、ゲリラ豪雨との関連性やその発生メカニズムの解明、豪雨の約30分前に収束がピークになる傾向に着目した事前予測の可能性を模索していくことになるということです。

また、最後に東京都環境科学研究所で行っている「軽量（薄層）な屋上緑化によるヒートアイランド緩和効果を定量的に明らかにする」の研究について、環境科学研究所事務所屋上での実験状況や小学校校庭での芝生化効果実験状況を交えてのお話を頂き、講演を締めくくられました。

本講演は、日頃から身近に感じていることのお話でしたので、参加者全員が有意義な時間を過ごすことができました。ご講演、ありがとうございました。

2. 第2部 (15:30~17:00)

演 題 : 「東京における微小粒子状物質 PM2.5 の現状と今後」

講 師 : 公益財団法人 東京都環境公社 東京都環境科学研究所
所長 柿沼潤一氏



講演する柿沼先生

最近注目されている PM2.5 について、最近の話題や日本と諸外国の現状、東京での推移と現状、そして今後の見通しをご講演いただきました。

中国北京での深刻な大気汚染の状況、日本への移流の可能性、日本での注意喚起のための暫定的な指針等、最近の話題をお話いただきました。なお、46 道府県で実施体制を整備している、「注意喚起のための暫定的な指針」(2013 年 2 月)では、PM2.5 の濃度が日平均で $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた場合、不要不急の外出や屋外での長時間の激しい運動を出来るだけ減らすこととされていますが、東京都では、過去にこの基準値を超えた事例の無いこと、環境対策が進められている中で PM2.5 の濃度の減少が見込まれていることから、この指針を採用していないとのことでした。

日本および諸外国の PM の状況 (PM10) をお話いただきました。PM2.5 のモニタリングステーションはあまり多くないため、比較の可能な PM10 をみると先進国に比べて中東や東南アジアで高く、深刻な状況の場所は北京だけではないことが想像されるとのことでした。

東京の大気質は、廃棄物焼却の改善、自動車排ガスの規制等が功を奏し、1970 年台に比べて大幅に改善されています。現在は、光化学オキシダントと PM2.5 の低減対策が残された課題で、東京都長期ビジョン (仮) 中間報告では、光化学オキシダントの注意発令をなくすこと、PM2.5 の環境基準を全測定局で達成することを課題としています。

東京の PM2.5 は、その発生源が東京都内のものが 11% 強で、残りは主に他の地域からと推定されており、削減対策は東京都だけでなく広域的連携が必要です。

PM2.5 の主体は 2 次生成粒子ですが、前駆物質、生成機構ともに未解明の部分が多いのが現状です。東京都環境科学研究所では、これらを解明し、効果的な大気質改善対策の提案を目的とした調査研究を実施しているとのことでした。

質疑応答では、東京都における PM2.5 の注意喚起のあり方等があり、活発な議論がかわされました。

本講演では、PM2.5 の現状について最新の研究成果に基づいた、大変貴重なお話を伺うことができました。ご講演、ありがとうございました。



会場の風景

平成 26 年度 技術研修会 参加者名簿

平成 26 年 10 月 27 日 於 スクワール麹町 3 F 華の間

No.	会 社 名	氏 名	備考
1～3	いであ (株)	鈴木 幹夫、高山 容子、本島 孝一	
4, 5	(株) オオスミ	高橋 正一、鮫島 憲一郎	
6	(株) 化学分析コンサルタント	日山 貞由紀	
7, 8	(株) 環境管理センター	斉藤 徹、真柴 茂	
9	(株) 環境技術研究所	中村 勉	
10～12	(株) 環境総合テクノス	小牧 博信、土谷 武、川崎 俊一	
13	(株) クレアテラ	矢久保 守	
14, 15	三洋テクノマリン (株)	吉永 一男、藤身 論	
16, 17	新日本環境調査 (株)	近田 裕行、加藤 なつ美	
18	(株) 長大	星山 貫一	
19, 20	帝人エコ・サイエンス (株)	谷口 新吾、志知 尚彦	
21, 22	(株) 東京環境測定センタ ー	五十嵐 鋼、佐藤 伸彦	
23～25	(公財) 東京都環境公社	江本 茂雄、松田 徳博、高橋 和清	
26, 27	(株) トーニチコンサルタント	川東 光三、酒井 多恵子	
28, 29	ヒロエンジニアリング (株)	竹田 良平、琴尾 たかね	
30～33	(株) 分析センター	佐藤 隆、野田 奈緒果、富樫 道生 松本 詩帆	
34	明治コンサルタント (株)	山本 義男	
35	(株) ヤクルト本社中央研究所分析セン ター	前川 満	
36, 37	(株) ユニチカ環境技術センター	加洲 教雄、下町 正弘	
38～41	ユーロフィン日本環境 (株)	江口 誠一郎、平山 禎之、大山 雅丈 下回 悠介	
42	(株) 中研コンサルタント	福林 幸雄	千環協
43, 44	東京テクニカル・ サービス (株)	武内 茂、山本 智	千環協
45	日鉄住金環境 (株)	河野 泰訓	千環協

23 社 45 名

平成 26 年度 首都圏環協連・研修見学会報告

本年度の『研修見学会』は、首都圏環境計量協議会連絡会の研修見学会として、首都圏の 4 県単、(一社)神奈川県環境計量協議会、(一社)埼玉県環境計量協議会、千葉県環境計量協会、及び当協議会合同での開催となりました。

今回は、『神奈川県水産技術センター (三浦市三崎町城ヶ島)』と『横浜市南部汚泥資源化センター (横浜市金沢区幸浦)』での研修見学会を計画しました。

日 時	平成 26 年 10 月 23 日 (木)	
参加者	37 名 (内、東環協会員 18 社 23 名)	
行 程	東京駅鍛冶橋駐車場 出発	9 : 00 発
	宝町ランプ～首都高速～横浜・横須賀道路～城ヶ島大橋	9 : 00～10 : 30
	神奈川県水産技術センター 見学	10 : 30～11 : 50
	昼食 (たちばな)	12 : 00～13 : 30
	横浜市南部汚泥資源化センター 見学	14 : 30～16 : 00
	横浜中華街にて懇親会	17 : 00～

小雨が降る中、多少のトラブルでバス発車が 15 分程度遅れましたが東京駅鍛冶橋駐車場を出発して宝町ランプで首都高速に入り、途中に横須賀 PA で休憩を取り、更に京浜急行三崎口駅で神奈川県環境計量協議会のメンバー 6 名と合流し、目的地の神奈川県水産技術センターへ向かいました。当センターは、県内の栽培漁業推進を担い、ビデオ等や見学コース説明によると、飼育水温を調整し様々な飼育環境を設定することができるアクアトロニシステムや、実験水槽の水質を経時的に測定したり、その飼育データの解析のための水質モニタリング装置が整備されているとのこと。種苗生産コストの低減や生産方法の効率化を図っているそうです。

あいにくの天気でしたが隣接の水槽でマダイの餌付け体験が出来るようになっており、参加者全員でマダイの餌やり体験を致しました。タイは大型のものも多く 6、7 年を経過している成魚も居るそうです。



神奈川県水産技術センター



マダイの餌付け

その後バスにて、三崎港の繁華街エリアまで移動、『たちばな』にて鮪づくしランチをいただいた後、二番目の研修地となる『横浜市南部汚泥資源化センター』に移動となりました。

『横浜市南部汚泥資源化センター』は東京都でも下水汚泥の集中処理は実施していますが、横浜市では汚泥の処理により発生するガスを有効利用するなどして汚泥処理を効率化している等、先端技術を取り入れて実施している処理プラントです。各処理センターで発生した汚泥は、汚泥を圧送するパイプラインを通して集められます。そこで、処理工程を経て減容化が進められます。ここでの資源有効利用としては、

- ・消化ガスを有効利用し、場内動力の 50%程度を賄っている。
- ・発電電力量は一般家庭に換算すると、約 4 千世帯分とのことです。



南部汚泥資源化センター

今回計画していた研修見学会も予定どおり終了し、バスに乗り込み帰路につきました。

途中、大きな交通渋滞もなく、予定どおり 17 時頃から、横浜中華街で懇親会を行った後解散となりました。今年の研修見学会も、皆様のご協力により、無事、終了することができましたことを、お礼申し上げます。

今後も楽しく、役立つ研修見学会を催すことができれば幸いです。ご意見等ございましたら、何なりとお聞かせください。

ありがとうございます。



南部汚泥資源化センター内



集合写真

今回の研修では、神奈川県の水産業を支える「神奈川県水産技術センター」と、横浜市の下水汚泥の資源化を担う「横浜市南部汚泥資源化センター」見学をして参りました。

■神奈川県水産技術センター■

1. 施設概要 明治 45 年に神奈川県庁内に水産試験場として設置され、昭和 17 年に三浦市三崎町に移転。その後、昭和 39 年に現在位置に庁舎を移転。神奈川県の水産技術センターは今回訪れた三崎町城ヶ島のほかに、相模湾試験場と内水面試験場を有しています。

見学内容

- ①シアター・・・当該施設の概要及び業務内容の上映
- ②展示室・・・養殖の稚貝等の説明
- ③タッチングプール・・・マダイへの餌やり

2. 見 学

はじめに、施設内のシアターで神奈川県内の漁業を学びました。ここでは、東京湾と相模湾の違いを述べたうえで、神奈川県の水産業の特徴が紹介され、とても参考になりました。二つの湾には、①地形、②水温の違いから異なった生物が存在するそうです。

<東京湾と相模湾の違い>

	深さ(平均)	湾内	形状	黒潮	水温(冬季)
東京湾	約 40m	容量(少)	—	流れ込みにくい	10℃
相模湾	約 1,000m	容量(多)	相模トラフ	流れ込み易い	13℃

※ちなみに、相模湾とは城ヶ島～真鶴を結んだ以北のことを指します。以南は、相模灘という。

<漁業の仕方の違い>

東京湾	小型底引網	マアナゴ・シャコ マコガレイ等	相模湾	定置網★ (大きさが 400×70m あるもの)	サバ・イワシ等 (イワシ 30%・サバ 26%・ ブリ 12%・ソウダガツオ 6% アジ 4.5%)
	あなご筒	マアナゴ		刺網	ヒラメ・伊勢エビ
	まき網	カタクチイワシ		まき網	カタクチイワシ
	刺網	カレイ		シラス船引網	相模湾シラス

★これはランドマークタワーを横にしてすっぽり収まってしまうほどのサイズ

<漁業の現状>平成 20 年の漁業人口は 2,000 人強と少なくなりましたが、底を打ったのではということだそうです。しかしながら、60 歳以上の方が多く課題はまだありそうです。

<水産技術センターの役割>漁業に関する環境調査、主に海域環境の調査をしながら神奈川県の水産業の支援を行っています。水質に関しては、東京湾では、夏季の底層の溶存酸素量低下による貧酸素水塊の形成の動向を監視しています。溶存酸素量の低下はシャコやマアナゴ等底生性魚介類の分布や漁場形成に影響を与えるからです。

また、東京内湾域で水温、塩分等の調査も実施しています。

展示コーナーでは、あなご筒の説明や、サザエやアワビの稚貝についての説明を受けました。終わりには、センター内に設置されたプールで養殖されているマダイの餌やりをしました。





←サザエやアワビは”カジメ”という海藻を削り取って食べているそうです。カジメに含まれているクロロフィルから殻は緑色になるそうですが、色んな海藻を食べることによって、殻の色も変化するとのこと。



←施設内のプールのマダイさんたちです。餌を投げ入れると、元気に泳いで取り合いしていました。

■横浜市南部汚泥資源化センター■

1. 施設概要 南部汚泥資源化センターは、水再生センターで発生する汚泥を処理し、資源化する施設です。汚泥からは消化ガスや汚泥を焼却した後の灰など多くの資源が発生します。汚泥資源化センターでは循環型社会をめざしそれらの資源の有効利用を進めています。

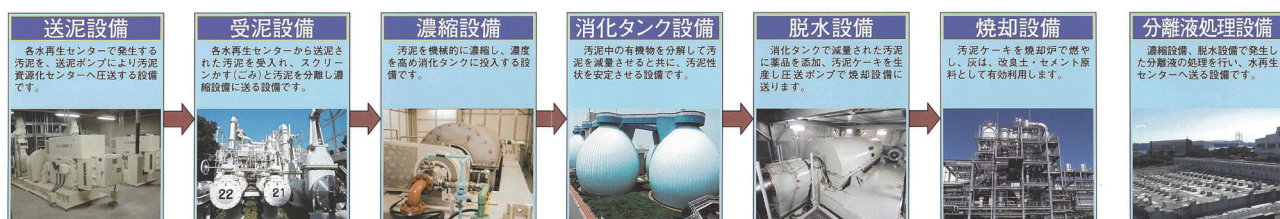
見学内容

①VTRによる施設紹介

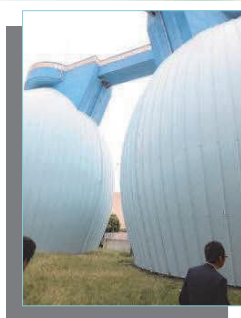
②敷地内見学（機械濃縮棟→消化タンク→第1脱水機棟→焼却4号炉等）

＜汚泥処理の手順＞

各水再生センターから送泥された汚泥は、濃度を高め消化タンクに投入します。消化タンクでは、汚泥中の有機物を分解して消化ガスを発生させ、汚泥を減量化します。消化タンクで減量化された汚泥は脱水機で脱水汚泥ケーキにして焼却処理します。



説明風景



左手にあるのが消化タンクです。とても大きいものであることがうかがわれます。右手にあるのがその模型です。このタンクで、有機物を分解して汚泥を減量化させます。ここで発生したガスは貯められて、発電に用いられます。



このエネルギーによって、センター内の半分の電力をまかなっているとのこと。残りの半分はごみ処理施設から出るエネルギーをもらっているそうです。また、最後の工程で焼却処理された焼却灰は、それに含まれる石灰を利用し、軟弱地盤の埋戻土に再利用されるとのこと。

■感想■

今回の見学を通して、水に関する環境分野を学ぶことができました。私たちの生活に直結することばかりでした。目立たなくとも、着実に社会に貢献していける仕事をしていきたいと思いました。

【参考文献】 「水産技術センター」ホームページ、「南部汚泥資源化センター」パンフレット

平成 26 年度 首都圏環協連・研修見学会 参加者名簿

平成 26 年 10 月 23 日

No.	所 属	氏 名	備 考
1, 2	(株) アクアパルス	増田 健一、加藤 範行	神環協
3	(株) オオスミ	大角 武志	神環協
4	(株) 神奈川環境研究所	梶田 哲弘	神環協
5	(株) 湘南分析センター	井出 正	神環協
6	(株) 総合環境分析	大塚 克弘	神環協
7	(株) タツタ環境分析センター	佐野 翼	神環協
8	富士産業 (株)	白石 辰徳	神環協
9, 10	いであ (株)	鈴木 幹夫、海老 澤隆宏	東環協
11, 12	(株) オオスミ	鈴木 典子、田口 和男	東環協
13	(株) 環境管理センター	斉藤 徹	東環協
14	(株) 環境技術研究所	中村 勉	東環協
15	(株) 環境総合テクノス	小牧 博信	東環協
16	三洋テクノマリン (株)	立石 賢吾	東環協
17	新日本環境調査 (株)	川岸 邦充	東環協
18	(株) 長大	星山 貫一	東環協
19, 20	帝人エコサイエンス (株)	谷口 新吾、志知 尚彦	東環協
21	(株) 東京環境測定センター	五十嵐 鋼	東環協
22, 23	(株) トーニチコンサルタント	川東 光三、酒井 多恵子	東環協
24	日本エコテック (株)	坪金 辰昭	東環協
25	日本コントロールシステム (株)	田中 恵	東環協
26	(株) 日本シーシーエル	川内 康弘	東環協
27	ヒロエンジニアリング (株)	竹田 良平	東環協
28	(株) ユニチカ環境技術センター	加洲 教雄	東環協
29	ユーロフィン日本環境 (株)	江口 誠一郎	東環協
30, 31	松田産業 (株)	秋谷 輝久、吉川 栄一	東環協
32～35	(一社) 埼玉県環境計量協議会	野口 裕司、山崎 研一、志賀 伸弥、 鈴木 智昭	埼環協
36	(株) 環境テクノ	永沼 正孝	埼環協

合 計 36 名

「都民計量のひろば」報告

東京都では、毎年 11 月 1 日の計量記念日に都民の方々に楽しみながら計量への関心を高めていただくために、「都民計量のひろば」を開催しています。今年も下記の内容でイベントが実施され、当協議会も環境と計量コーナーで出展協力致しました。

テーマ：メインテーマ「くらしと計量」 サブテーマ「正しい計量 大きな安心」

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土） 午前 10 時 30 分～午後 4 時

場所：新宿駅西口広場イベントコーナー

主催：都民計量のひろば実行委員会

構成団体：東京都計量検定所、(社)東京都計量協会、東京都環境計量協議会等の 18 団体

当協議会が担当した「環境と計量コーナー」では、恒例のイベントとして「環境問題やごみ問題をテーマとしたクイズ」を実施し、クイズのヒントとなる「水質」「ごみの 3R」「音の大きさの目安」「PM2.5」「放射線量の目安」に関するパネル計 8 枚と放射線量計、騒音計を展示しました。

クイズに参加された方々は、パネルを熱心に読んでクイズの答えを探し、行き詰まった方はスタッフから説明を受けていました。その結果、ほとんどの方に正解していただきました。クイズ終了後、参加者にはエコ商品（オープナー）か「魚魚だより」の絵葉書をお渡しました。



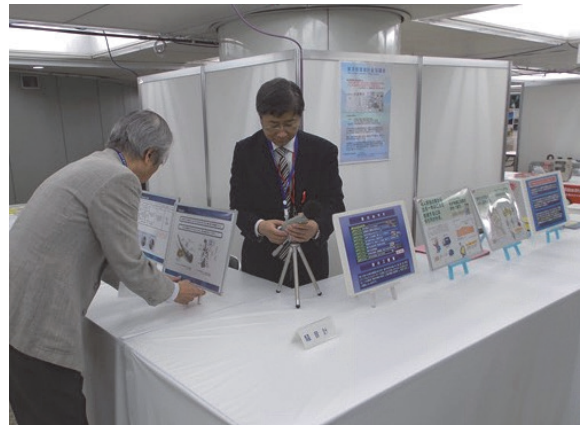
クイズで渋滞、大盛況



お子様連れの参加者の皆様



当日スタッフの方々



出展準備の様子

開催が土曜日となりましたので、予想以上に多くの方に参加していただき、用意していたクイズ回答紙や景品が午後早々に不足しそうになる一幕もありました。また、家族で参加していただいた方が多く、熱心にパネルを見ながら会話される様子が印象的でした。参加された方からは、いろいろ学べてよかったという意見をいただきました。また、クイズの回答を間違えた方の中には、詳しく説明を求める方の姿もありました。

他のコーナーでは、「計量体験コーナー」で 100g の感覚に挑戦できたり、寒暖計や棒ばかりを製作してみたり、「健康と計量コーナー」では血圧、体重、体組成、骨強度などが測定できたりしました。「食品と計量コーナー」では糖度や塩分を参加者が測定できたり、「計量相談コーナー」では計量についてのいろいろな相談がおこなわれていました。また、ステージのある場所では、「計量アトラクションコーナー」として計量マジックやマリンバ演奏が行われ、多くの方が見入っていました。どのコーナーも、多くの参加者でにぎわいを見せ、今年の「計量のひろば」も盛況のうちに幕を閉じました。（「環境と計量コーナー」へは約 500 人の方に来場いただきました。）



計量体験コーナー棒ばかりの製作



糖度測定にチャレンジ



健康と計量コーナー



計量マジックの様子

2014.11.1 都民計量のひろば 会場案内図

開催時間：10:30～16:00

←都庁方面

JR 新宿駅西口方面→

新宿駅西口地下ロータリー 側

<ステージ>アトラクション

・マリンバ演奏

Marimba Duo なつかよ (ヘブンアーティスト)

10:35～、12:00～、14:05～、15:20～

・計量マジック

11:00～、12:25～、13:15～、14:30～

① 総合案内 ○アンケート回収、粗品引換え

計量体験コーナー

② 計量感覚ゲーム 100g に挑戦！

1等 (100g ピッタリ)

2等 ($\pm 2g$)、3等 ($\pm 5g$)

計量相談コーナー

③ 計量工作教室

寒暖計をつくろう 11:20～、13:35～

棒はかりをつくろう 12:45～、14:50～

常設コーナー

④ 食品と計量コーナー

⑤ 水道と計量コーナー

⑥ ガスと計量コーナー

⑦ 電気と計量コーナー

⑧ 環境と計量コーナー

健康と計量コーナー

⑨ 血圧測定

⑩ 体重・体脂肪測定

⑪ 骨強度測定

総合案内

- アンケート回収
- 粗品引換え

計量感覚ゲーム

計量相談

②

①

計量マジック
マリンバ演奏

③

緑視率コーナー

④

食品と計量コーナ

計量工作教室

水道と計量コーナ

⑤

⑥

ガスと計量コーナ

電気と計量コーナ

⑦

⑧

環境と計量コーナ

カーボンオフセットコーナー

⑪

⑩

⑨

健康と計量コーナー

小田急エース南館

京王モール 側

都民計量のひろば

くらしと計量 - 正しい計量 大きな安心 -

- 11月1日は計量記念日 -



平成26年**11月1日(土)**
10:30~16:00
新宿駅西口広場イベントコーナー (入場無料)

計量に関する展示やゲーム、工作等のコーナーがあります。お気軽にお立ち寄りください。

主催：都民計量のひろば実行委員会

実行委員会構成団体 (50 団体)

株式会社イシダ・一般社団法人計量器コンサルタント協会・株式会社タニタ・株式会社寺田精工・東京科学環境協会
株式会社環境計量協議会・東京計量士会・東京都計量証明事業推進会・東京都水道局・一般社団法人日本地事特定協会
日本ガスメーター工業会関東支部・日本電子計量器工業協同組合・一般社団法人日本計量器協会
一般社団法人日本製粉株式会社関東支部・日本建築計量器研究所・株式会社松屋・一般社団法人東京都計量協会
東京都生活文化局計量検定所

催しのご案内

東京都計量のひろば実行委員会

「計量法」は平成5年11月1日に、国計や社会革新への対応と消費者利益の確保という観点から全面改正し施行されました。以後11月1日を「計量法の日」とし、家計から計量への関心を高めたいと多くの市民の間に、「都民計量のひろば」を開催しております。本年も皆様のご来場を心からお待ちしております。

都民計量のひろばは実行委員会

- 健康と計量コーナー
血圧計、体組成計などによる各種測定
- 水道・ガス・電気と計量コーナー
水道・ガス・電気に関する計量器・パネル展示
- 食品と計量コーナー
食品の糖度、塩分、アルコール度数などの測定
- 計量相談コーナー
計量相談・資料の展示
- 計量体験コーナー
100gに計量、はかり・基礎計を作る
- 計量アトラクションコーナー
計量マジック、マリンパズル(楽楽パズルアタッシュ)

10:30
基礎計を作る 11:20 12:30
検定かりを作る 12:45 14:50
100gに計量 15:00 15:30

10:30
計量マジック 11:00 12:25 13:15 14:30
マリンパズル 10:35 12:00 14:05 15:20



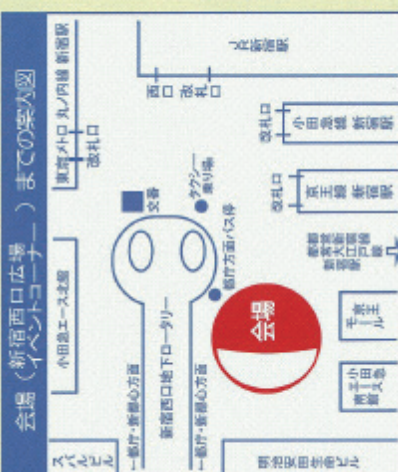
交通案内

新宿駅(西口)

JR各線、東京メトロ丸ノ内線
御堂新橋・大江戸線、京王線、小田急線
...地下改札を出てすぐ(左記案内図参照)

お問合せ先

東京都生活文化局 計量検定所
東京都江東区新砂3-3-41
電話：03-5617-6643
一般社団法人 東京都計量協会
東京都江東区新砂3-3-41 (計量検定所内)
電話：03-6666-8960



発行所：都民計量のひろば実行委員会
印刷：都民計量のひろば実行委員会
発行：2014年10月発行
発行所：都民計量のひろば実行委員会
印刷：都民計量のひろば実行委員会
発行：2014年10月発行

関連ポスター

関係機関・団体の動き

平成 26 年 11 月現在で、既に実施又は今後予定されている関係機関及び団体の主な動きは、以下のとおりです。

○ 首都圏環境計量協議会連絡会

- | | | |
|------------|-----------|--------------------------------|
| ・ 第 2 回連絡会 | 9 月 19 日 | 千代田区猿楽町 |
| ・ 見学研修会 | 10 月 23 日 | 神奈川県水産技術センター
横浜市南部汚泥資源化センター |
| ・ 親睦ゴルフ | 11 月 14 日 | キングフィールズ G C |
| ・ 第 3 回連絡会 | 12 月 5 日 | 千代田区猿楽町 |

○ (一社) 神奈川県環境計量協議会

- | | | |
|---------------|--------------|--------|
| ・ 新入社員教育研修会 | 6 月 12. 13 日 | 東邦クラブ |
| ・ 船上研修会 | 9 月 5 日 | |
| ・ 地曳網・ビーチクリーン | 10 月 11 日 | 湘南片瀬海岸 |
| ・ 合同会議 懇親会 | 12 月 12 日 | 東邦クラブ |
| ・ 賀詞交歓会 | 1 月 23 日 | 未定 |

○ (一社) 埼玉県環境計量協議会

- | | | |
|----------------------|-----------|------------|
| ・ 第 2 回勉強会 (環境計量士取得) | 8 月 31 日 | 熊谷環境分析センター |
| ・ 県民計量ひろば | 11 月 1 日 | 大宮西口共同ビル |
| ・ 研究発表会 | 11 月 28 日 | 大宮サンパレス |
| ・ 新春講演会 | 1 月 30 日 | 未定 |

○ 千葉県環境計量協会

- | | | |
|------------------|-----------|-------------------|
| ・ 親睦会 (ボーリング大会) | 8 月 30 日 | VEGA アサヒボーリングセンター |
| ・ 研修見学会 | 9 月 10 日 | 東京税関 東京臨海広域防災公園 |
| ・ 環境測定技術事例発表会 | 11 月 7 日 | プラザ菜の花 |
| ・ 親睦会 (ソフトボール大会) | 11 月 8 日 | 幕張西運動広場 |
| ・ 技術講演会 | 11 月 21 日 | プラザ菜の花 |

○ (一社) 日本環境測定分析協会

- | | | |
|---------|----------|----------|
| ・ 新春交歓会 | 1 月 16 日 | 東海大学校友会館 |
|---------|----------|----------|

東環協からのお知らせ

○平成 26 年度第 2 回（通算 29 回）親睦ゴルフ大会（首都圏合同）報告

11 月 14 日（金）千葉県市原市にあるキングフィールズゴルフクラブにて恒例となっている親睦ゴルフ大会（秋季）が、首都圏環協連（東環協 神環協 埼環協 千環協）合同で開催されました。

晴天に恵まれ、総勢 28 名に参加頂きました。

1985 年 11 月開場の丘陵コースで、コース案内通り、ゆるやかな起伏の土地に展開し、1 グリーンの周辺にヒトデ型のバンカーを数多く配したアメリカンスタイルのコースでした。フェアウェイは広いが大小の池も効果的に配置されたり、バンカーにはさまれたり、あるいは傾斜があったりと単純に中央狙いではスコアメイクができないコースで、思うようにスコアが纏まらない方もおられたようです。



設計者が意図した「打ってはいけない方向をしっかりと見抜く力量が必要」というコース案内がありましたが、見抜いてもそっちへ行ってしまいう方もおられたようです。

参加頂いた、皆さまありがとうございます。

また、表彰式を兼ねたパーティでは、ゴルフ談義に花が咲き、皆さま充分親睦を深められたご様子でした。

次回は、来春の開催を予定しておりますが、残念ながら今回ご参加頂けなかった皆さまも是非ご参加頂きますようお願いしております。

○平成 26 年度主要行事予定

1 月には、下記の行事を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

・賀詞交歓会

平成 27 年 1 月 27 日（火）

○事務局からのお知らせ

・平成26年度の会員の動き

現在の会員数（平成26年11月現在）

正 会 員 78社

賛助会員 11社 合 計 89社

入会された会員

会 員 区 分：正会員

会 員 名：リオンサービスセンター株式会社

代 表 者：代表取締役 富田 正信

連絡担当者：品質保証部 部長 富田 真一

TEL：042-632-1121 FAX：042-632-1132

会 員 区 分：賛助会員

会 員 名：日本コントロールシステム株式会社

代 表 者：代表取締役社長 堀内 伸泰

連絡担当者：LIMS ユニット 田中 恵

TEL：03-3443-5081 FAX：03-3443-5189

※社名、代表者、所在地等に変更がありましたら、会員名簿の 20 頁に掲載の『変更届』（別紙 2-1）にご記載の上、事務局までご提出ください。

なお、『変更届』は、ホームページからも PDF 版をダウンロードできるようになっておりますのでご活用ください。

・編集後記

遅くなりましたが、技術研修会、研修見学会、都民計量のひろばの報告を中心にニュースを作成いたしました。各報告とも大変興味深い内容でしたので、参加されなかった方は記事を是非ご一読ください。

また、当協議会のホームページをリニューアルして 2 年が経過しました。新着情報や法令等改正情報は随時更新しておりますのでご利用ください。当ニュースに加え、ホームページについてご意見・ご感想等がありましたら、事務局までご連絡ください。今後もタイムリーな企画・運営を心掛けて参りますのでご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

【東環協ニュース（第 156 号）に関する訂正のお知らせ】

前号東環協ニュース（第 156 号）の文中に一部誤りがございました。

お詫びを申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

・該当箇所（P 33「関係機関・団体の動き」のコーナー）

下から 3 行目

誤：『環境セミナーin 福島 by 埼玉』

正：『環境セミナーin Nagano(2014)』

下から 2～1 行目 第 22 回日環協・環境セミナー全国大会 in Yamaguchi の日程

誤：9 月 26 日～27 日

正：9 月 25 日～26 日